

武士に被成ける處、殊の外勇氣衰へ、御家にて度々の軍役に一度も手にあはず。不首尾の事ども多く遂げて、知行召放され、行衛不知と、加州の老人語る。とあり。おもふに、右慶覺坊は蓮如の時にて、文明の頃の人なるよし、慶覺寺の由來書に記載し、三州志等にも泉入道洲崎兵庫は蓮如の弟子と成るなど載せられたれば、永祿・天正頃の洲崎兵庫は、其の子孫にて別人なるべけれど、諸舊記には皆同人の如く載せたり。故にその事實互に齟齬して判然せず。利家卿の扶持し給へる洲崎兵庫は、慶覺坊より遙か後の子孫なるべけれど、歴世詳かならず。又古兵談に云ふ。賀州河北郡太田村にて合戦仕たるは、石川郡の一揆大將須崎兵庫といふ者なり。越後の人數一萬餘と云ひ、十月六日大雪の夜、須崎五百餘にて山手より押寄せ夜合戦、越後勢敗北なり。又云ふ。天正年中に加州能美郡・江沼郡の一揆大將共、越前丸岡へ柴田伊賀招き集めて、成敗す。其の時欠落したる者は、江沼郡作見の藤丸新助也。賀州松任へ石川郡河北郡の一揆大將を和談にして招き集め、佐久間玄蕃成敗したるも同日同時也。此の時欠落したるは須崎兵庫也。飛驒國へ落ち

たり云々。とあり。按ずるに、洲崎兵庫越後勢を中條・太田邊にて敗軍せしめたるは、天正五年也。又佐久間盛政が成敗を遁れ、飛驒へ落ちたるは、天正八年也。松雲公夜話錄に、越後謙信一揆爲退治加州へ發向、寒風強く太田村へ人數を入れ、火を燒き居たる處、加州の大將何の能登と載らん申す者俄に取掛り、謙信手もなく敗軍す。其段高德公被問召、右能登を被召抱。其以後度々合戦に一度の高名も無之。惣て奉公人祿重くなれば安堵し、不奉公仕るもの也と、享保五年六月五日御意也。とあり。右能登といふは即ち須崎兵庫が事なりと聞ゆ。

○止伊原町

承應四年正月廿八日寺社奉行宛名の書札に左の如く載せたり。

今度金澤卯辰法華慈雲寺手前に半人抱置、度々御觸御座候處、終に御理不申上候儀、不屈之仕合に付、急度可被仰付處に、此度之儀は被爲成御赦免候。向後不遁者、又は如何様之半人にて抱置於申者、其由緒改、早速寺社御奉行に可及御理旨、重而被仰出候趣、畏奉存候。五無油

斷吟味仕、半人抱置候者見聞次第に急度申上候。若於隠置者、連判之寺中越度可被仰付候。爲其組を立御請上げ申候。以上。

承應四年正月廿八日

どいはら町法然寺判
桶屋町妙恩寺判

茨木右衛門殿

山森吉兵衛殿

右法然寺は、今犀川河上町の法然寺なり。此の寺は初め百姓町慶覺寺向町の東側にありしを、享保十五年の夏川上の今の地へ移轉せし由、彼の寺記に見ゆ。故に三箇屋版の六用集に、法然寺百姓町と見え、元祿六年の土帳にも、百姓町ほうねん寺近所など載せたり。さればどいはら町といふは、今慶覺寺の向町にて、承應の頃は此の町をどいはら町と呼びたりしかど、後には此の町名絶えて、元祿の頃は既に百姓町と呼びたりし事、右の土帳或は六用集などにて知られけり。但しどいはら町と呼びたる町名の由來等は、いまだ詳かならず。

○法然寺舊地

川上法然寺由來書に云ふ。開祖億譽慶長八年建立、寺地は地子地にて、百姓町に有之處、九代瑞空之時、享保十五年犀川川上新町今の地へ移轉仕ると。但し今傳來する寺記には、開基廓蓮社億譽貞運慶長八年に創立、四世秀譽承應三年三月辭職。夫より萬治二年まで六年間無住にて、平僧を置き看司せしむ。此間に檀家改宗或は他派の寺院へ轉じ、寺衰廢破壞に及べり。其以前は鎮西派の處、八坂安樂寺の住職吞龍、心蓮社に乞ひて西山派の地とし、萬治三年二月より再興を營み、看司を置き、本堂を再建す。延寶二年の春安樂寺より當寺へ移轉す。故に今吞龍を中興の開祖とす。夫より九世瑞空代享保十四年八月本多房州より寺地替之儀被申渡。依之同年九月及出願、翌十五年二月十七日許命を蒙り、中夏頃今の地に移轉す。舊寺地は百姓町にて、漸く二百七十歩、今の地は千二百歩。房州母公より本堂建立せらる。とあり。慶覺寺より川上に河内屋と云ふ商家近頃まであり。此の邸地はそのさき此の地に寺ありし頃の墓跡なりとて、後々まで骨瓶などを折々掘出せりといへり。されば法然寺の寺跡は、此の邊にてありし事知られ